

半導体関連製品を増産

22年5月期 設備拡充・売上高20%増

須藤精密



【立川】須藤精密（東京都瑞穂町、八幡直幸社長）は、半導体製造関連治工具などの増産体制を整える。微細加工機を1台追加したほか、今後、2台の装置導入を計画している。「受注が昨秋から上向いてきた」（須藤▲……………）

導入した碌々産業の微細加工機「MEG AISSS」

（会長）ことから、設備拡充で増産に備える。総投資額は約1億円。増産対応により、2022年5月期の売上高を21年5月期見込みに比べて20%増やすのが目標だ。

導入したのは碌々産業の微細加工機「MEG AISSS」。室温を約1度C以内で管理している恒温室に設置した。細穴加工など

に対応、今回導入した機種を合わせ同社製の微細加工機は8台体制となった。

5月末にはDMG森精機のマシニングセンター（MC）「NVX 7000」を導入し、半導体製造装置用金型といった大型部品加工の増加に対応する。同機の導入により夜間自動運転を拡充、工場の生産性20%向上することを目指す。さらに、8月にはファナックのロボドリル「αDi B5」を導入する予定だ。

半導体関連の治工具は多品種少量生産で、規設備の導入で同分野を深耕する。

顧客への対応力が重視される。同社では「半導体需要の盛り上がりは2-3年続く」（同）と見ており、新規設備の導入で同分野を深耕する。